

## 日本藻類学会会員の皆様へ

日本藻類学会会長 川井浩史

ご承知のように、日本藻類学会は藻類学（藻学）の分野では世界でも有数の規模と50年を超える歴史を持つ学会であり、その活動の中心となる会報（英文誌「Phycological Research」と和文誌「藻類」）は53巻を数え、春季大会は来年には第30回を迎えます。また、2002年には筑波で本学会の50周年記念大会とのジョイントで開催されたアジア太平洋地域藻類学フォーラムが大きな成功を収め、今後は2007年には神戸で国際海藻学会議が、2009年には東京で国際藻類学会議が予定されるなど、本学会は世界の藻類学の進展にもきわめて重要な役割を果たしております。

しかしその一方で、会員数はここ数年国内外において微減傾向にあり、また2004年度には英文誌発行経費の3割近くをまかなっていた学術刊行助成金がカットされるなど、学会の運営はきわめて厳しい状況にあります。このような状況の中で、今後も本学会が日本の藻類学研究の中心的な学会として存続し、また真に国際的な学会として発展していくためには、外国人会員の獲得や学会活動の国際化（たとえば外国人会員に国内会員と同等の権利・サービスを与えることや、インターネットなどによる広報）に真剣に取り組み、英文誌についてもさらに国際化を進めていく必要があると考えております。また、国内の会員に対しては、和文誌やホームページを通じての様々な情報の提供や、大会・シンポジウム・ワークショップなどによる会員相互の交流と共同研究などへのきっかけの提供が求められていると感じております。

この大変な時期に会長を仰せつかったことは、きわめて重たいことではありますが、先輩諸氏のこれまでのご努力を無駄にしないためにも、会員の皆様のご協力を得て、なんとか学会活動の活性化を進められればと考えております。どうぞよろしく申し上げます。